



言葉を選びながらゆっくりと答える誠実さ。
芝居を語る時の挑むようなまなざし。
時折見せる少年のような笑顔。
さまざまに色を変えるその表情に、目が離せない。

—俳優・青柳 ^{あお やぎ} 尊哉 ^{たか や}—



16歳で役者を目指し、30歳で誰もが知る「ウルトラマン」作品に登場することとなった彼の想いを伺った。

—ウルトラマンシリーズ放送開始50年目の作品となった「ウルトラマンオーブ」出演。プレッシャーはありましたか？—

ウルトラマンシリーズには世代を超えたファンが大勢いらっしゃいますので、最初はすごくプレッシャーを感じていました。演じていくうちにどれほど大きな作品に触れているのかと実感が湧いてきました。周りにいるウルトラマンファンの皆さんに教えてもらうことが多くて、「受け継がれていくもの」に関わることができたことはすごくことだと感じています。

僕が30歳、ウルトラマンオーブ役の石黒英雄さんが27歳と決して若くはありません。だからこそ、これまで自分たちが経験してきたことをまっすぐに作品にぶつけようと思いました。お互いの会話は「心のやりとり」になるように、現場スタッフも一丸となってサポートしてくれました。

—役づくりで難しかったことは？—

テレビの前の子どもたちにとって「トラウマになつてくれたらいいな」と。

僕が演じたウルトラマンオーブの宿敵「ジャグラス ジャグラー」は気持ちの上下が大きくて、暴力性をはらんでいるんだけど、向かう相手には一直線な人。そのさじ加減が難しかったです。

みんな、世界を救うヒーローに憧れるけど、実際は難しいことに直面して悩んだり、失敗して転んでしまうこともあり

ますよね。子どもたちには、転んだら立ち上がっていい、ミスしても立ち向かっていいんだと、ジャグラーを通して感じて欲しいです。

僕自身、これまでに俳優だけではうまくいかないからいろんなバイトもしてきました。悔しい思いもたくさんしました。活躍している人達を「うらやましい」とずっと思っていました。そんな羨望や焦りが混ざり合わさったような感情を、全部ジャグラーに乗せてやれたという思いはすごくあります。

今の自分だから演じられたのだと。



あお やぎ たか や
青柳 尊哉

1985年2月6日生まれ。佐賀市出身。アルファセレクト所属。『ウルトラマンオーブ』にて宿敵ジャグラスジャグラー役を好演し、近年は声優としても活躍。

■その他代表作
『MOZU season2』(2014)、主演映画『Father』(2013)、『進撃の巨人』(2015)、『怒り』、『ガチャガチャ』(2016)

—どんな少年でしたか？—
4人兄弟の番上なんですけど、よく「屁理屈を言う」って怒られていました(笑)。高校は1年生の途中で中退しました。そのまま学校に行き続けることが怖くなったんです。背中から大きな何かに押されて、大勢が同じ方向を向いて流れていく感じ。「このままでは溺れてしまう」と思って、一旦止まりたくなつたんでしょね。

—俳優を目指したきっかけは？—

明確に目指したのは16歳ぐらいです。高校を辞めてから、親友の両親が営むうどん屋でバイトをしていました。当時は、社会の渦の中で何をしたいのかわからず、ずっと不安でした。

そんな時、テレビで「日本アカデミー賞」

の授賞式を見たんです。出演者が赤いカーペットの上を歩き、映画に想いを馳せる。そんな人たちの姿を目の当たりにした時、「ここに行けばいい。ここならきっと僕の思いはぶつけられる。」と思いました。それが俳優を目指した瞬間です。

—俳優としての初仕事は？—

「ライオン先生」(2003年)というテレビドラマで、高校生役でした。放送を見た時は、正直、自分がかかりました。この程度なのか…と悔しかったです。

でも、そのドラマの放送が終わった後に父親から電話がかかってくる。それまでの関係が雪解けになるきっかけになったんです。佐賀に居るころは、父親の心配する気持ちには気付けなかったのです。



今では、佐賀で両親と過ごす時間はのんびりできる大切な時間です。

—悩んだ時、迷った時の支えは？—

嬉しいことに佐賀から声をかけてくれる人がいるんです。「頑張ってるね?」って。僕自身、「頑張るな」と言っているんですけど、「いや、東京で頑張っているのはすごいよ」と言ってくれるんです。

「すごいな」と思っている自分と、「すごい」と言っただけの人たちがいる。このギャップを埋めなきゃ。俺、まだ何も残してないぞー」って思う。その時に初めて「役者を目指していた自分」に戻ってこれるんです。



—市民の皆さんへメッセージを—

大好きな人たちが住む「佐賀」という町が、僕はすごく好きなんです。

今、佐賀のことを全国の人に伝えられる場所にいることに、胸を張りたいと思います。

これからも応援よろしくお願いします！

インタビューの模様は**ぶんぶんテレビ「佐賀市から〜元気の種〜」**で放送。

■放送日時 1月16日(月)〜29日(日)

① 9時45分 ② 17時 ③ 19時45分

企画・編集

本庁 秘書課 広報係

☎ 40・7021 FAX 24・3463

✉ hisho@city.saga.lg.jp

